

天と地が始まった時に、たかまのはら高天原にお出来になつた神様の名は、あめのみなかぬしのかみ天之御中主神・たかみむすひのかみ高御産巢日神・かみむすひのかみ神産巢日神・うましあししかびひこじのかみ宇摩志阿斯訶備比古遲神・あめのとこたちのかみ天之常立神。

中略

以上の五柱の神様を別天津神ことあまつかみといひます。

中略

次にお出来になつた神様は、伊耶那岐神・伊耶那美神。

中略

ここに別天津神すべての神々は、伊耶那岐・伊耶那美二柱の神様に「この漂つてゐる土地を整え固めて完成せよ」と仰せになり、あめのぬほこ天の沼矛を授けられました。

そこで二柱の神様は、天界と下界とを繋ぐあめのうきはし天の浮橋にお立ちになり、その沼矛を指し下して掻き回され、海水をころころと掻き鳴らして、矛をお上げになりますと、その矛の先よりひた滴り落ちる海水の積つたのが、おのごる島となりました。二柱の神様はその島に降りられ、あめのみはしらまず天の御柱を見立て、次に御新居となるべきやひろどの八尋殿を見立てられました。

伊耶那岐の命は伊耶那美の命に「お前の体はどの様に出来ているか」と訊ねられたので、伊耶那美の命は「私の体は出来上がつていて出来きらない処がひととちう一処あります」と答えられ、そこで伊耶那岐の命の仰せられたのには「私の体は出来上がつていて出来すぎた処が一処ある。だからこの私の出来すぎた処をもつて、お前の出来きらない処に合わせふさ塞いで、国を生みだそうと思う。どうだろうか？」伊耶那美の命は「それがよいでしょう」と答えられました。

そこで伊耶那岐の命は「それならば、私とお前と天の御柱をあめのみはしら行き巡り合つてみとのまぐはひ(ⅡH)をしよう」と約束をして、早速「お前は右より回り、私は左より回りお前に逢おう」と仰せになり、御柱を廻る時に、伊耶那美の命あめのみはしら先ず「ほんとにまあ、いとしいおかた

ですこと」と言われ、後に伊耶那岐の命「なんとまあ、かわいい娘だろう」と言われました。その時、伊耶那岐の命は妻に「女が先に声をかけたのはよくないのでは」と仰せになりましたが、余り気にもとめず日をされ、やがて伊耶那美の命は、骨のない水蛭子をお生みになりました。二柱の神様は嘆き悲しみながらこの子を芦船に乗せて流し去りました。次に淡島をお生みになりましたが、この子も出来がよくありませんでした。

伊耶那岐の命は「今、私たちが生んだ子は良くない、やはり別天津神に相談しよう」と言われ、別天津神の指示を仰がれました。そこで別天津神等は占いをされ、二柱の神様に「女が先に声をかけたのがよくない、再びかえつてやり直せ」と仰せになりました。

今度は「なんとまあ、かわいい娘だろう」「ほんとにまあ、いとしいおかたですこと」と言い終えて、結婚されてお生みになった子は、淡路嶋・四国・隠岐嶋・九州・壹岐嶋・津嶋（対馬）・佐渡嶋、そして大倭豊秋津嶋。これら八つの嶋をまずお生みになられたので日本のことを大八嶋国とも言います。

その後小さな島々を生み国を造り終えて後、今度は沢山の神様をお生みになりました。

中略

次に火之迦具土の神をお生みりましたが、この火の神をお生みになったことよって、伊耶那美の命のみほとが焼かれ病氣になって伏せられてしまいました。

以下略